

# ARCUS

Residency for Artists, Experiments for Locals, Moriya, Ibaraki

現在のアート・芸術文化を守谷から。

●問合先 アークススタジオ (もりや学びの里内)  
日・月曜日休館 ☎ 46-2600 (10:00 ~ 18:00)

✉ arcus@arcus-project.com

◎詳細な情報はアークスプロジェクトで検索!

アークスプロジェクトのアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、これまで31か国・地域より97人のアーティストを招き、制作活動の支援をしてきました。24年目となる今年度の招へいアーティストは、過去最多応募数となる85か国・地域より717件の応募の中から選ばれた3組です。8月25日(金)から12月12日(火)までの110日間、アークススタジオを拠点に滞在制作に取り組みます。どうぞお楽しみに。

## ◎2017年度招へいアーティストの紹介

▼フリエッタ・アギナコ (メキシコ/33歳) & サラ・ドゥムーン (ベルギー/33歳)

言語、社会空間における発話や人間の認知などに興味を持ち、リサーチを基に、映像、パフォーマンス、インスタレーションなどを制作する。守谷では、利根川とその流域の人々との関係の歴史に着目し、犬吠埼までのフィールドワークやリサーチを通して、アウトサイダー(一時的な訪問者)から見た新たな物語を創作する予定。  
※インスタレーション: 空間全体を使った芸術表現



▲ Sarah Demoen (左), Julieta Aguinaco (右)



▲「The Limits of My World」(2015) (一部)、ドローイング

▼ダニエル・ニコラエ・ジヤモ (ルーマニア/30歳)

ルーマニアの経済的状況、移民としてのイメージなど、ヨーロッパ社会におけるルーマニアの表象を、客観的な立場と私的な視点を交錯させた架空の広告や物語などを通して表現する。守谷では、16人の10代の参加者を募り、2028年という未来に存在する架空のルーマニア人移民を演じるワークショップを行う予定。



▲ Daniel Nicolae Djamo



▲「A Last Year in 114 min」(2014)、映像

▼カーティス・タム (米国/30歳)

自然現象や地球物理学、地質学など科学的主題で綿密なリサーチを行い、そこから得た情報・データを視覚化・音声化して作品にするというユニークで領域横断的な活動を行う。守谷では、サイレン(警告音)についてリサーチし、世界中でリアルタイムに起きている自然災害を、即興的に音に変換するプロジェクトのシリーズを展開する予定。



▲ Curtis Tamm



▲「Tympanic Tether」(2015-)、パフォーマンス

## ◎サポーター募集中!

アークスプロジェクトでは、年間を通してボランティアサポーターを募集しております。アーティストの制作にご協力いただける方、国際交流をしてみたい方、英語の練習をしたい方、アーティストに守谷のことや日本のことを伝えてみたい方、何か面白いことを企画してみたい、アークスのことはよく知らないけれど、何だか気になってる。など、どんな方でも大歓迎です。もりや学びの里にあるアークススタジオへ、どうぞ気軽に越してください。電子メールや電話でのお問い合わせもお待ちしております。